



平城宮跡資料館

秋期企画展

主催：独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

# 地下の正倉院展 — コトバと木簡

二〇二一年

10月18日(火)

月曜休館

11月27日(日)

展示期間

第一期 10月18日(火)～10月30日(日)

第二期 11月1日(火)～11月13日(日)

第三期 11月15日(火)～11月27日(日)

展示は右記3期に分けておこないます

ギャラリートーク

10月23日(日) 午後2時～

11月6日(日) 午後2時～

11月20日(日) 午後2時～

問い合わせ先 0742(30)6753

◎入館無料  
◎開館時間 午前九時から午後四時三十分(入館は四時)まで  
◎開催場所 平城宮跡資料館(近鉄大和西大寺駅より東へ徒歩一〇分)

後援：文化庁、国土交通省近畿地方整備局、国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、読売新聞社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、木簡学会



「陸奥国」の三文字から、はるかフロンティアの地がよみがえる。

平城京の時代、文字は全国にひろまった。  
はるかフロンティアの地、東北地方に関わる文字も、  
奈良の都に埋まっていた。

# I 全国に広がる文字

# III 文字のすがたかたち



全面にわたってゆったりと流れる筆遣い。木に馴染んだ筆の感触が伝わる。



「万」 「末」の「口」、上の字と「同化して」にいったかわからない。

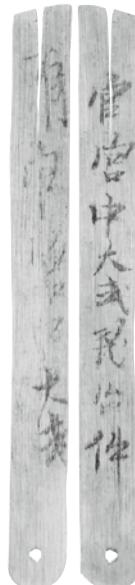
新しい文字を作り出したり、書きやすいように書いたり。  
漢字を習得し、その筆記に熟練しはじめた古代日本人は、  
次第に自在に使いこなすようになる。

日本語を、どうやって漢字で書き記すか。

漢字を生み出した中国語と日本語では、発音も、  
文法も異なっている。さまざまな工夫や試みが繰り返された。



漢字の音だけを利用して「阿万留止毛（アマルトモ）」。当時の声かきこえてくる。



役所の名前の略称を練習。漢字を使うには今も昔も皆おなじ。

# II コトバを漢字で

# IV 木簡から

# 万葉歌をのぞくと

よろずのことのはの集まった万葉集は、木簡と同時代の  
コトバの宝庫だ。そんな万葉歌を木簡を通じてのぞくと、  
新しい魅力が見えてくるかもしれない。



万葉人のとなりには朱沙があった。だから万葉集では赤鼻を朱沙でからかう。

ごあいさつ

木簡は、コトバを持った発掘遺物です。遺跡に、コトバを与えてくれます。

では、古代の人々はどうのように木簡にコトバを託したのでしょうか。漢字という異文化の文字を使いこなす工夫や、文字の書き記し方に見える漢字への習熟など、木簡には天平人がコトバを文字で表そうとした努力のあとが深くしみこんでいます。

今年、こうしたコトバをテーマに展示を組み立ててみました。木簡に記された文字から、万葉人が語らったコトバの世界を垣間見ていただきたいと思います。

終わりに、ご後援いただいた関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

二〇一一年一〇月

奈良文化財研究所長 松村恵司



近鉄大和西大寺駅から徒歩10分